



令和3年度（2021年度） 小学生すくすくテスト（第5・6学年）豊中市の結果概要

今年5月26日から6月1日にかけて実施された小学生すくすくテストについて、豊中市の児童のみなさんの調査結果の概要がまとまりましたので、お知らせいたします。

令和3年（2021年）10月 豊中市教育委員会

●目的

子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

●対象学年・参加児童数

第5学年：豊中市 3,653人 大阪府 69,330人
第6学年：豊中市 3,618人 大阪府 69,365人

●実施内容

第5学年：国語・算数・理科・わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート
第6学年：わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート

●各教科・わくわく問題（教科横断型問題）の出題内容及びアンケート内容について

国語：言語能力・読解力の基礎となる、基礎的基本的な言葉等の理解を問う問題
文章に書かれている意味を正確に捉える力（リーディングスキル）をはかる問題

算数：関数・数と計算・図形に関する基礎的な知識技能、数学的な表現や意味理解、日常の事象を数学的に処理する技能を問う問題

理科：理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことや、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を問う問題

わくわく問題（教科横断型問題）
教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題（SDGs、プログラミング的思考）等をテーマにした問題
文章やグラフ、ホームページの映像を模した場面等の様々な資料を題材としている。
問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題

アンケート

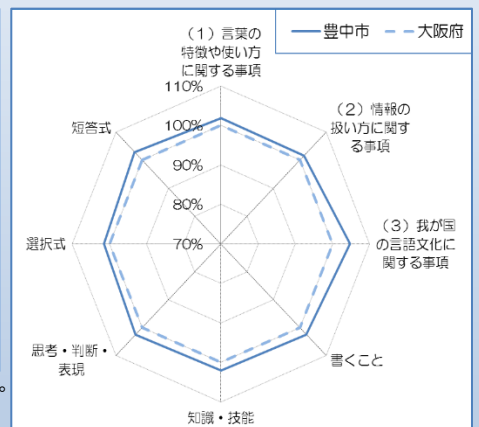
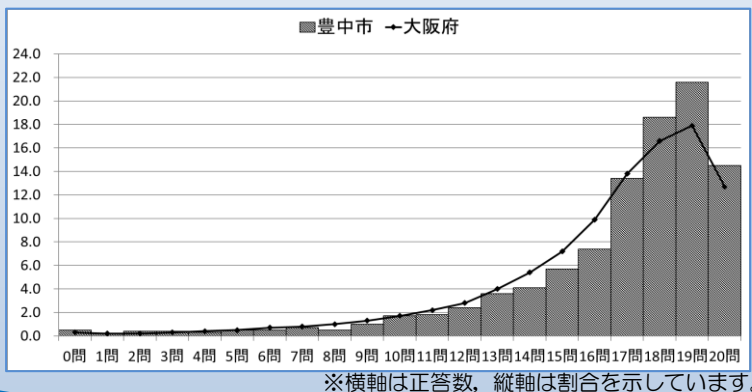
非認知能力である「未来に向かう力」と「好奇心」の一人ひとりの状況がわかる様々な問い方に基づく項目



第5学年 各教科（国語・算数・理科）

第5学年 国語

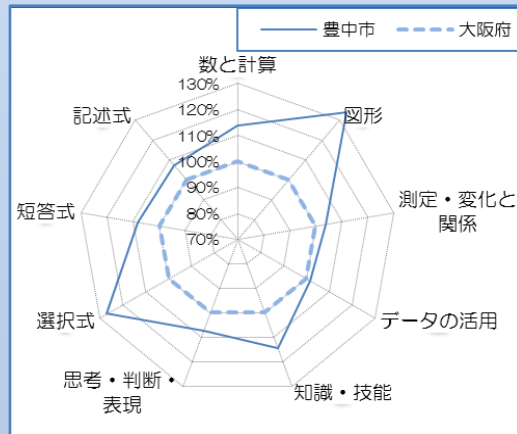
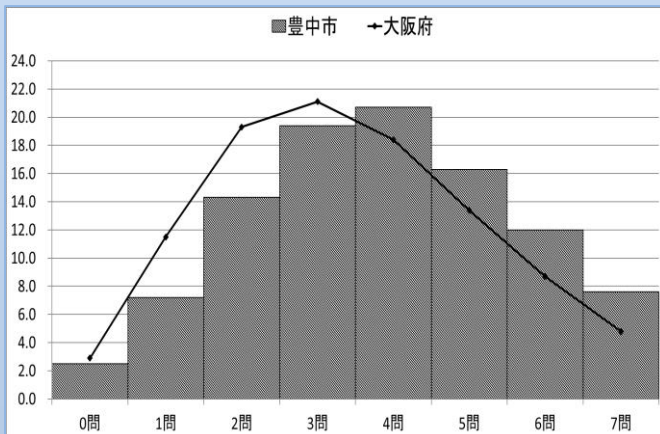
※軸の目盛は
グラフにより
異なります。



- どの観点においても大阪府の平均正答率（以下、正答率と表記）を上回っています。特に、文中の誤った助詞に気づき、適切なものを書き直す問題（問2（1））や、二つの文の意味のつながりを考え、適切な接続表現を使って一文に書き直す問題（問10）、ことわざの意味理解（問3）については正答率が高くなっています。
- 文脈に沿って正しく言葉の意味を理解し、提示されている語句の対義語を選択する問題（問6）では、正答率が低くなっており、課題が見られます。

分類	区分	平均正答率 (%)	
		豊中市	大阪府
	全体	83.3	81.6
学習指導要領の領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	83.9	82.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	82.1	80.8
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.1	75.5
	書くこと	77.3	75.4
評価の観点	知識・技能	83.3	81.6
	思考・判断・表現	77.3	75.4
問題形式	選択式	85.9	84.7
	短答式	80.7	78.5

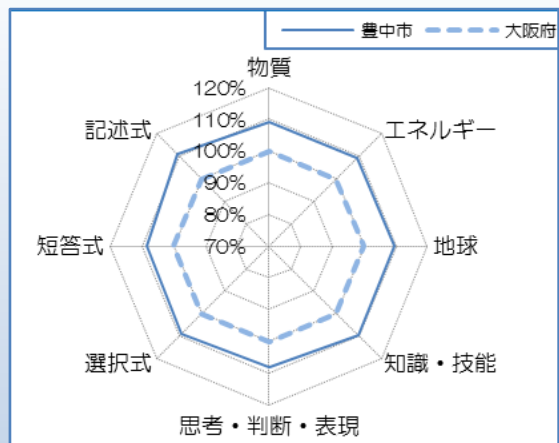
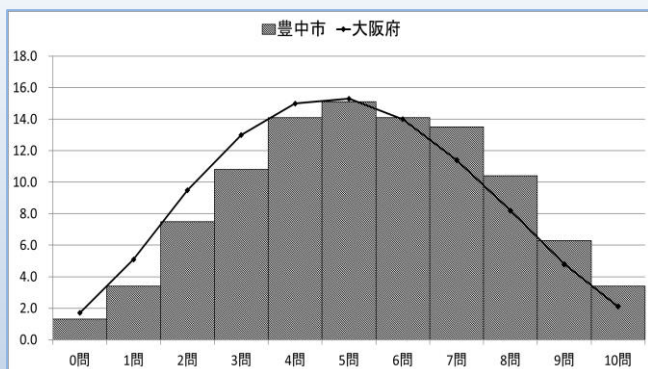
第5学年 算数



- どの観点においても大阪府の正答率を上回っています。特に、長方形の縦と横の長さから周りの長さを求める問題（問1（1））や2つの数量を比べる際の倍の意味を問う問題（問2（2））など、知識・技能を問う問題において正答率が高くなっています。
- ともなって変わる2つの数量の関係を理解し、言葉や式で表現することに課題が見られます。

分類	区分	平均正答率 (%)	
		豊中市	大阪府
	全体	54.8	48.5
学習指導要領の領域	数と計算	49.6	43.5
	図形	48.6	36.3
	測定/変化と関係	59.0	56.8
	データの活用	44.1	43.4
評価の観点	知識・技能	63.0	55.1
	思考・判断・表現	34.3	32.0
問題形式	選択式	57.9	45.6
	短答式	66.4	61.4
	記述式	34.3	32.0

第5学年 理科



- どの観点においても大阪府の正答率を上回っています。特に、方位磁針の正しい使い方や地面の温度の測り方など観察、実験などに関する知識・技能の項目において正答率が高くなっています。また、磁石の性質や物の性質など物質・エネルギーに関する知識・技能の項目においての正答率も高い結果となりました。
- 全体的によくできていますが、知識・技能と比べると、思考・判断・表現にあたる項目の自分の考えを書く問題（問1（5））の正答率が若干低い傾向が見られます。

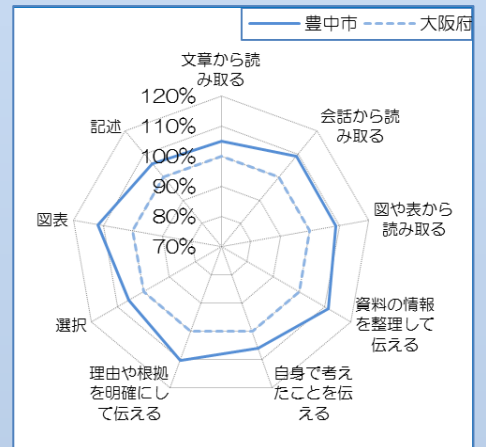
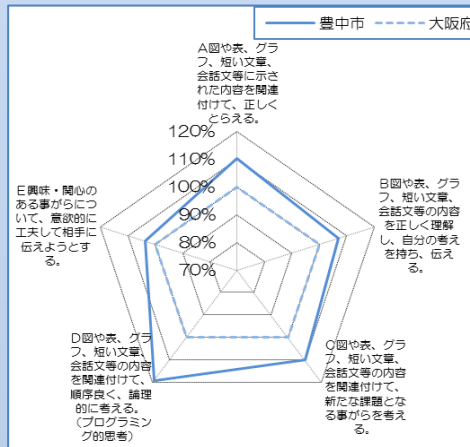
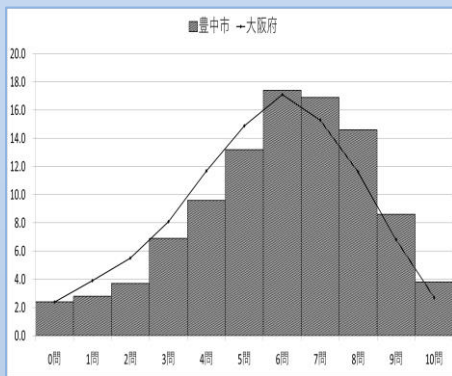
分類	区分	平均正答率 (%)	
		豊中市	大阪府
	全体	53.7	49.2
学習指導要領の領域	物質	66.8	61.3
	エネルギー	54.5	50.0
	地球	50.4	46.1
評価の観点	知識・技能	59.5	54.2
	思考・判断・表現	45.0	41.7
問題形式	選択式	56.3	51.5
	短答式	56.4	52.0
	記述式	30.2	27.2

第5学年・第6学年 わくわく問題（教科横断型問題）

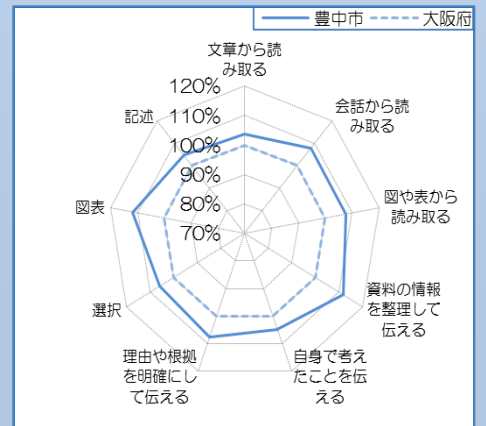
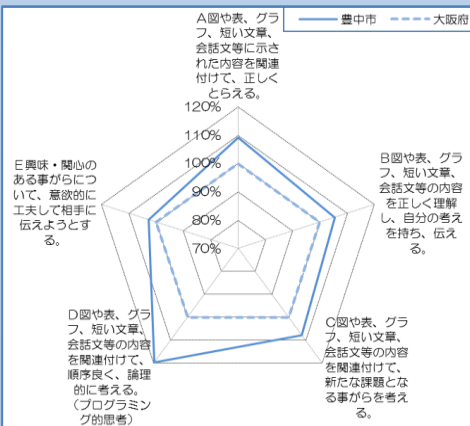
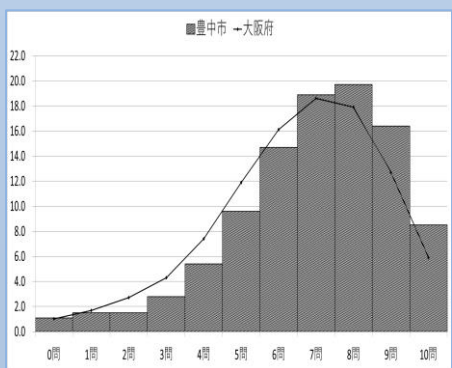


わくわく問題は、第5学年と第6学年に同一問題で実施されました。学年比較では、第5学年と第6学年間で平均11ポイント程度の差が見られました。第6学年児童の問1（3）の問題では、食品ロスを減らすことでどのような問題が解決するか自分で考えて書くことにおいて正答率が高かったことから、学年が進むにつれて、社会に関心を持ち、自分の考えを持つことができていると考えられます。また、問2（2）・問3（4）では学年を問わず意欲をもって取り組んでいることが見られました。

第5学年 わくわく問題



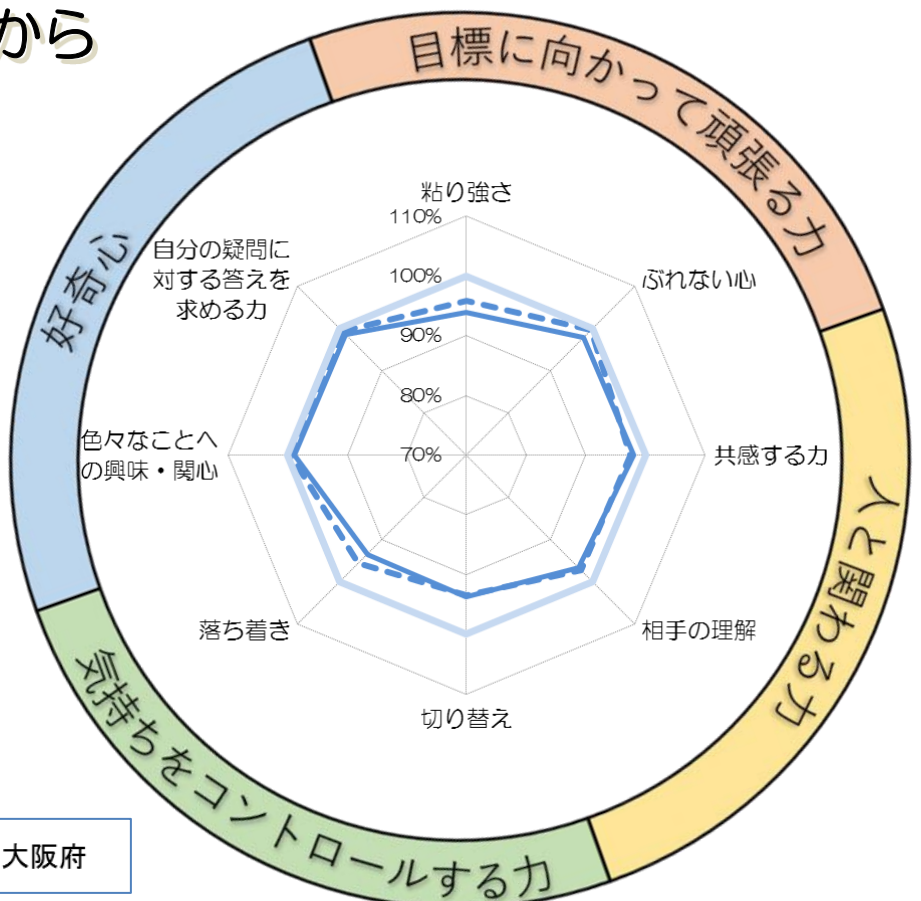
第6学年 わくわく問題



- 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち伝える観点や興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする観点の問題（問1（2）（3）問3（2））において、正答率が高くなっています。
- 問2（2）や問3（4）の記述式の問題では正答率が低くなっていることから、理由や根拠を明確に整理して説明することや、自身で考えたことを伝えることに課題が見られます。

児童アンケート結果から

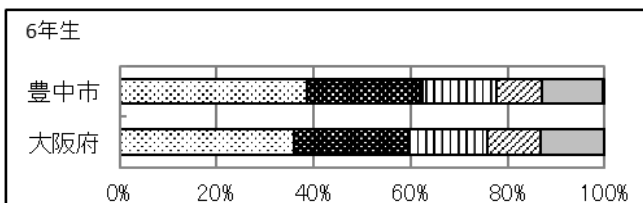
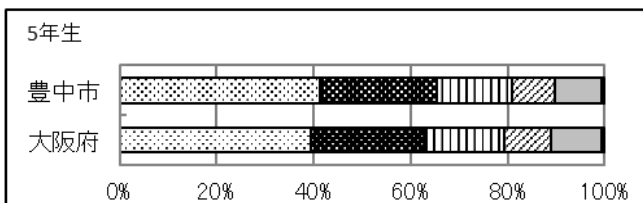
児童アンケート結果では、目標に向かって頑張る力・人と関わる力・気持ちをコントロールする力の「未来に向かう力」と「好奇心」の項目平均（当てはまる・どちらかといえば当てはまるの合計）から、大阪府を基準とした豊中市の特徴をまとめています。



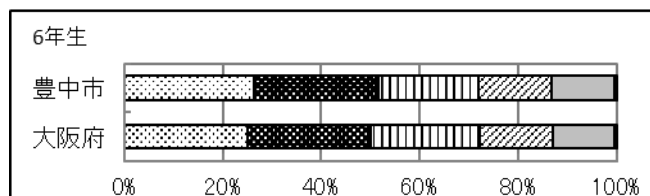
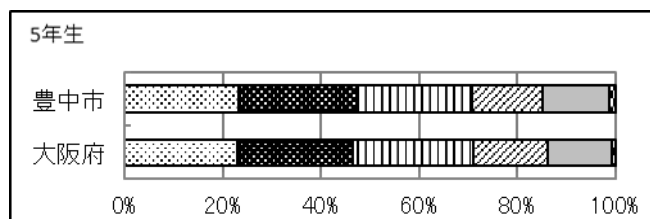
— 第5学年 — 第6学年 — 大阪府

肯定的回答が多かった質問

初めて会った人も、すぐに友だちになる

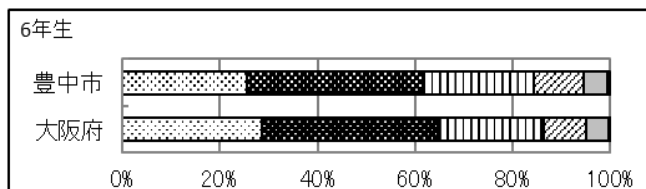
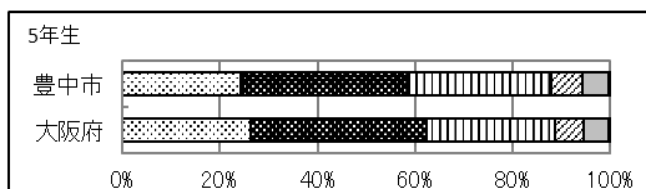


問題を解くために長時間じっくり考える

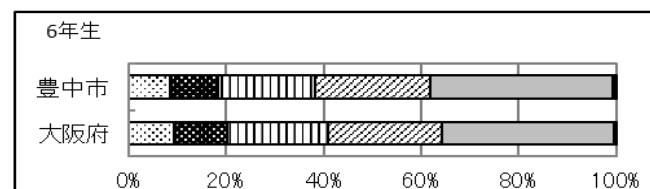
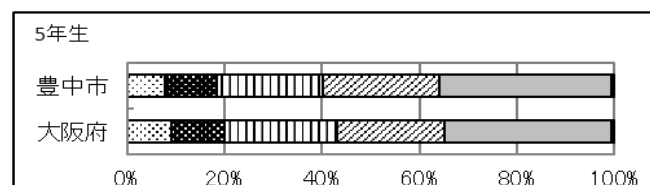


肯定的回答が少なかった質問

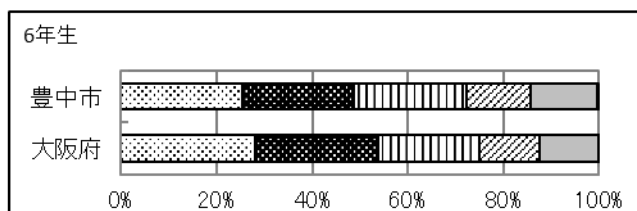
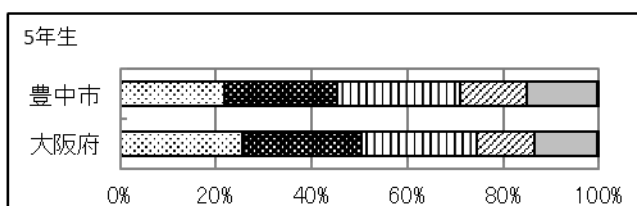
難しいことがあってもあきらめない



悩んでいる友だちがいても、その友だちと一緒に悩むことができない



イライラを感じる時は、考え方を改めて落ち着いていられるようにする



- 「人と関わる力」(共感する力、相手への理解)は、他の力と比べて高い傾向であると考えられます。
- 目標に向かって頑張る力「ぶれない心」や好奇心「自分の疑問に対する答えを求める力」など、興味を持ったことに対してじっくり考える項目において肯定的な回答が多いです。
- 目標に向かって頑張る力の「粘り強さ」、気持ちをコントロールする力の「切り替え」「落ち着き」の項目において肯定的な回答が少ないです。

- | | | | |
|--------------|--------------|----------------|----------------|
| ■ 1. あてはまる | ■ 2. ややあてはまる | ■ 3. どちらともいえない | ■ 4. ややあてはまらない |
| ■ 5. あてはまらない | □ その他 | ■ 無回答 | |

※このテスト及びアンケート結果は、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

